

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立久保泉小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和6年4月18日（木）

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

（1）教科に関する調査（国語、算数・数学）

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

（2）生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童（生徒）に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例)学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、 基本的生活習慣、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

■ 調査結果及び考察について

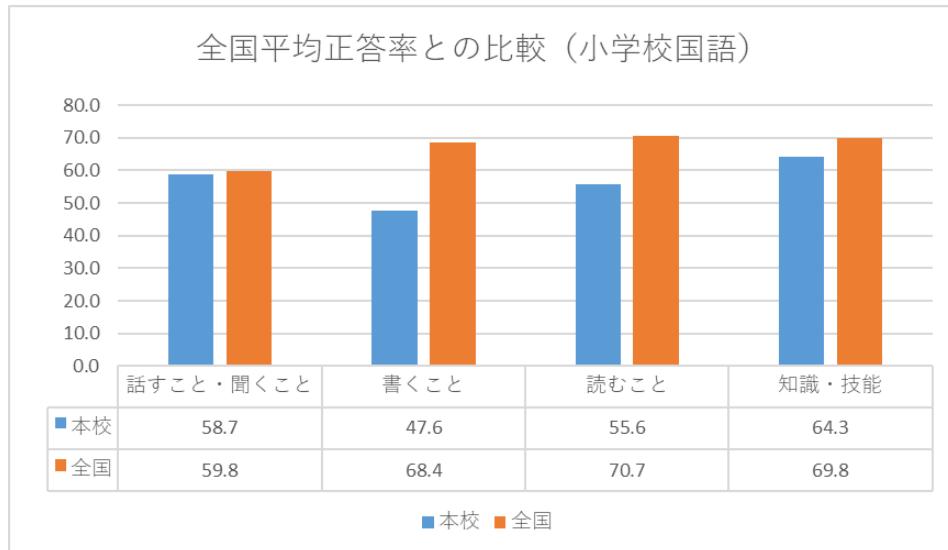
全国学力・学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語

(1) 結果

「話すこと・聞くこと」は全国平均に近い値です。「書くこと」「読むこと」「知識・技能」は、全国平均正答率を下回っています。また、無解答率をみると、全問題で全国平均よりも低くなっています。



(2) 成果と課題

今回の調査で、無回答率は全国平均よりも低く、設問に対してどうにかして答えを書こうとする意欲の高さがあると考察することができます。設問終盤で時間が間に合わず答えを書くことができなかつた設問を除くと、8割の設問で無回答率が0%でした。学びに向かう態度の育成がなされていることが成果として表れていますと評価できます。

一方で、問題形式によって正答率が上下することも顕著でした。問題形式が「選択式」「短答式」であると、正答率は6割程度であることに対して、「記述式」の形式となると正答率が4割を下回りました。記述することが不得手な児童が多くいること課題として浮き彫りになりました。しかしながら、記述に係る力として「思考力・判断力・表現力」がありますが、上述したように「話すこと・聞くこと」は全国平均に近い結果であることからも、表現すること全般について不得手ではないようです。今後は「書くこと」の力を伸ばしていくために、文を記述する意欲を高めることや、様々な文章の種類に触れることが、様々な文章を書き慣れることができる学びの場を提供していくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

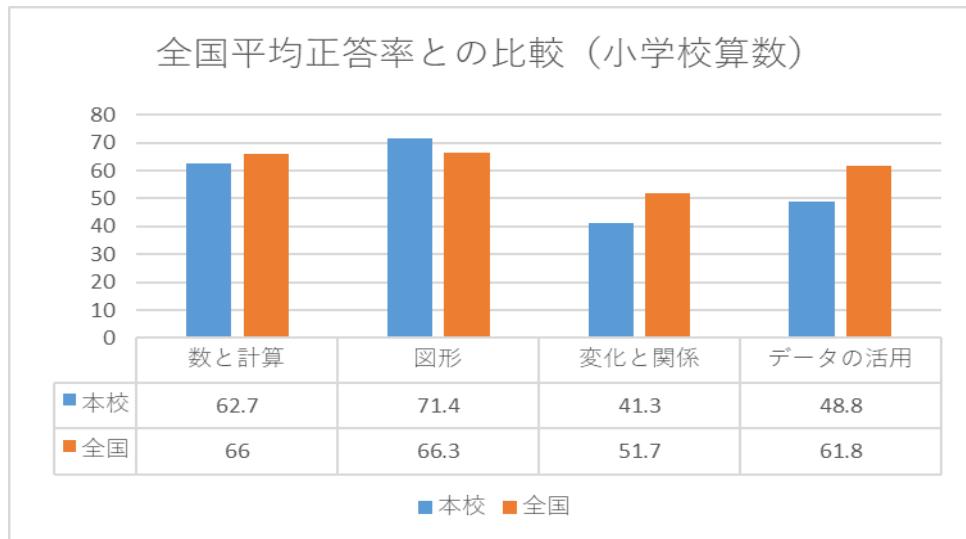
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子ども同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 文章記述に慣れるために、日ごろから条件に沿った文章を書く機会を増やしていきます。
- 表現することに抵抗感なく取り組むことができるよう、自分の考えとその理由を明確にしながら書したり書いたりする機会を増やします。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていきましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 多様な読書を大切にしていきましょう。書籍だけではなく、新聞記事、雑誌のコラム、インターネットのニュース、対談集、日常生活の中には様々な文章の種類があります。いろいろな表現や用語にふれ、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。

2 算数



（1）結果

「図形」領域で全国平均を上回りましたが、他領域で全国平均正答率を下回っています。また「選択式」の設問では、全国平均正答率を上回りました。一方で「短答式」の設問で無解答率が多かったです。

（2）成果と課題

今回の調査では、「選択式」の設問では全国平均正答率を上回り、「短答式」「記述式」の設問では、全国平均正答率を下回りました。「選択式」の設問の多くが「知識・技能」の力と結び付けられていることからも、児童に「知識・技能」の力が付く学びへ改善の成果が表れていると考えられます。一方で「短答式」「記述式」の設問は「思考力・判断力・表現力」の力と結び付けられています。全国平均よりも下回ったことからも、課題が明確となりました。今後は、自分の考えを、式や言葉を使って論理的に書いたり、対話活動を増やしたりとアウトプットする機会を積極的に設けることで学びの場の改善へつなげていきます。

「図形」領域については、念頭操作だけではなく、具体物やICTを用いた学びの改善を図ったことが成果として表れていると考えられます。今後は、他領域においても一人一台端末の効果的な活用方法を学びに取り入れて改善を図ることが重要であると捉えています。また一人一台端末でCBT（コンピューター・ベースド・テスティング）を用いた学習の定着度を高めていくことも大切にしていきたいと考えます。

（3）学力向上のための取り組み

【学校では】

- 様々な見方や考え方気付くことができるよう、話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- MEXCBT（メクビット）やeライブラリーを用いて家庭学習課題を提供することで、日々の指導の中で個々のつまずきを早期に見付つけ、小テストやプリント等も用いて補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- 一人一台端末用いて学びに向かっているお子さん姿に対して、たくさん励ましや称賛の言葉を掛けてください。
- お子さんには領域の得意不得手があるかもしれません。苦手な領域ばかりに目が向いてしまい、算数が嫌いになることは避けたいものです。得意な領域をもっと得意になって、算数が好きになるようたくさん励ましや称賛の言葉を掛けてください。

3 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結 果

※「当てはまる」「どちらかで言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童（生徒）の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	75.0%	83.4%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	20.0%	39.7%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	45.0%	56.1%
自分にはよいところがあると思いますか。	35.0%	43.4%
将来の夢や目標を持っていますか。	80.0%	60.6%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	70.0%	71.1%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	75.0%	79.5%

食事や就寝など、生活習慣に係る調査項目において全国平均よりも下回っていることが気になります。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。学校の取り組みやプリント等を活用していただき、お子さんと一緒に生活習慣が整うにしていきましょう。

キャリア教育を推進したことで、将来の夢や目標を持つことができています。将来の夢や目標をが、学習意欲と自己実現の高まりへつながるようにしていきたいものです。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか。「3時間以上」	5.0%	11.0%
「2時間以上、3時間より少ない」	25.0%	12.5%
「1時間以上、2時間より少ない」	40.0%	31.1%
「30分以上、1時間より少ない」	15.0%	27.0%
「30分より少ない」	5.0%	13.0%
「全くしない」	10.0%	5.3%

家庭学習については全国平均とほぼ同等です。個人差が見られるようですので、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、自分の目標に向かって、計画を立て家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。自主学習（自学ノート）についても高学年で取り組み、お手本になる自学ノートを掲示して定着しつつあります。
- 始業前の朝の読書の推奨をしたり、図書委員を中心に読書イベントをしたり、ボランティアによる読み聞かせをしたりするなど、読書の機会を増やすための工夫をしています。効果が表れてきているので、これからも継続していきます。

【ご家庭では】

- 上記の項目は、「まなざしカード」でも関連して取り上げている項目です。本校では、改善を目的として年に3回の「まなざし週間」の取り組みを行っております。よい生活習慣が定着できるように、継続して取り組んでいただきたいです。お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識が更に高まります。